

餃子の中にお金！？中国人家庭で春節（旧正月）のホームステイ体験

北京事務所

中国人家庭へのホームステイ

ご存知の方も多いでしょうが、春節とは旧暦の正月を指し、中華圏で最も重要とされる祝祭日です。春節中は、家族と一緒に過ごすことが一般的であり、今回の春節中に帰省した人は 36 億人とも言われています。

今年は 1 月 31 日を日本の元旦にあたる「初^{チュウ}一」としており、企業はその前後 10 日間程度を連続休暇とするのが一般的です。その間は、北京からは人がいなくなるため、宅配便の配達が遅り、レストランでも料理人が帰省したため飲み物しか提供できない、ということも多くなります。

家族と遠く離れて暮らしている日本人を不憫に思ったのか、親しくしている中国人女性に「自分の実家で一緒に年を越さないか」と提案してもらい、中国の一般家庭でのお正月を経験することができましたので、ご紹介します。

正月準備に大わらわ

今回私が過ごしたのは、遼寧省の盤錦市という地方都市で、北京から新幹線で 4 時間程度行ったところでした。油田や石油関係の国営企業の名前が至るところで見られ、地域の一大産業であることがわかります。今回お世話になった友人の父も石油関係の国営企業で働いており、住まいのある団地に住む人は全て同じ国営企業に勤める人だとのことでした。

まず、各家庭の玄関には正月の飾りつけが見られました。「福」という字が逆さに貼られているのを見たことがある方もいると思いますが、福字の他にも、赤い紙に縁起の良い文字を書いた春聯（しゅんれん）と呼ばれる紙が貼られています。室内には赤い提灯も飾られており、外から見ると、それぞれの家庭から赤い光がもれていました。

スーパーでは、たくさんの人でごった返していました。正月は新品の洋服を着たり、新しい食器を使うという習慣があるそうで、日用品売り場も大変賑わっていました。中でも赤い洋服ばかりを売るコーナーが設けられていたのが印象的でした。友人の父も、全身赤の肌着を身につけて過ごしていましたが、後から調べると、厄年にあたる年男・年女が、春節から一週間は全身赤い服を着て、外出せずに過ごすという風習があるようです。



どの家からも赤い光がもれる



大量の飴が並ぶ、お菓子売り場

食品売り場は、日本の年末と同様の混雑した状況でしたが、お菓子売り場で、大量の餡を買い求める人が多くいました。友人に聞くと「人生は辛いことが多いから、正月だけは甘いものを食べて過ごす」のだと笑っていました。

年越し水餃子

大晦日は父方の実家で年を越す、ということで私もお邪魔しました。至るところで爆竹の音がする道を 10 分程度歩いた所に実家があり、友人の祖父母をはじめに、総勢 17 名が集まっていました。

まず午後 3 時頃に晩御飯を食べます。少し早いように思いましたが、中国の東北地方では夜中には年越し蕎麦ならぬ年越し水餃子を食べるため、この時期は早い時間に晩御飯を食べるようです。

夜 9 時を過ぎると、一家が揃って水餃子を包みだしました。それはまさに中国らしい光景でした。団子状の生地を小さく分ける人、それを平たく伸ばす人、餃子をひたすら包み続ける人、毎年繰り返されているであろうこの流れ作業により、あっという間に 300 個以上の水餃子が包みあがりました。これを新年を迎える時間にいただくのです。いくつかの餃子の中にはお金が入れており、それを食べた人は一年間お金に困らないということで、子供たちは見つけ出そうと必死です。私も 5 角の入った水餃子を食べましたが、餃子からお金が出てくるという発想に、(正月ではありませんが) 餅にお金を入れる風習のある日本の実家を思い出し、興味深く感じました。



水餃子作りは、家族の流れ作業

これが静かなお正月？

春節の風物詩と言えば、古くから厄除けとして上げられる花火と爆竹です。昨今の大气汚染問題から、自粛するよう呼びかける公共広告も見ましたが、やはり新年を祝いたい気持ちは勝っていたのか、家の中に居てもテレビの音が聞こえづらいほどの爆音があちらこちらで響いていました。春節を初めて経験する私にとっては、近くを歩くと恐怖を感じるほどの音でした。

しかし「これでも少なくなった方だ」と中国人は口をそろえます。花火・爆竹のごみ量も大幅に減ったというニュースもあり、多くの中国人にとって、厄除けよりは「この空気をどうにかしたい」という思いの方が切実なのかもしれません。



間近で見る爆竹

中国のお年玉事情

正月といえば、お年玉を思い浮かべる人もいることでしょう。一般的に、就職していたとしても、結婚するまではお年玉がもらえることが多いようです。この家庭には赤ちゃんもいたのですが、2千元程度（約3万4千円）はもらっていたのではないのでしょうか。北京市の法定最低賃金が月額 1,400 元であることから、相当高額のお年玉であることが分かります。お年玉は中国の経済発展を反映してか、年々高額化されているようです。



お年玉をもらう赤ちゃん

情に厚い中国人

これを読まれている人の中に、家族で過ごす大切な正月に、見ず知らずの外国人が混じっていた経験がある人はいるでしょうか。

最近日本では、中国や中国人に対するマイナス点が、ネガティブキャンペーンのように報道され、その類の書籍が売れていると聞きます。全てが誤りだとは言いませんが、中国の方は、一度関係を築くと相手を非常に大切にする、情に厚い人が多く、それらの報道には違和感を感じることも多くあります。

今回のホームステイはその感情を再認識するものでした。招いてくれた友人、受け入れてくれた家族に対しては深く感謝したいと思います。

(桑本所長補佐 島根県派遣)

